

平成29年度 U32 Young Officials Camp 2017 参加報告書

1. 日程：平成30年1月5日（金）、6日（土）
2. 場所：浦安市運動公園総合体育館
3. 主催：公益財団法人 日本バスケットボール協会
4. 講師：5日（金）平育雄氏、上田篤拓氏、片寄遠氏、加藤誉樹氏、佐藤誠氏、漆間大吾氏
6日（土）平育雄氏、上田篤拓氏、関口知之氏、細田知宏氏、有澤重行氏、堀内純氏
5. 受講生：各ブロック推薦者30名（男性22名、女性8名、平均年齢26.7歳）
6. スケジュール・研修内容

○1月5日（金） 1日目

時間	研修名及び講師
9:00～9:15	開講式、講話①「U32YOCについて」（平育雄氏）
9:15～10:00	講義②「3POメカニクス IOT」（上田篤拓氏）
10:10～11:00	講義③「プレゼンテーション」（加藤誉樹氏）
12:00～18:45	3PO実技①
18:45～19:15	コート研修（上田篤拓氏、加藤誉樹氏、漆間大吾氏）

研修内容

まず初めに、平氏より「U32YOC」に関するお話をして頂きました。国際審判員養成や、日本のトップレフェリーになるために若手審判員の早期育成が必要であり、そのシステムも年々変化しているということ、またこのキャンプに参加するだけでなく、日常の努力の積み重ねをし、次のゲームや次のステージへと進んでほしいというお話をしていただきました。

続けて、上田氏より本研修のメインである「3POメカニクス」について講義していただきました。トスアップからの3人のポジションや、そのあとの動きに関して映像を用いながら確認した後、それぞれのプライマリやポジションアジャストの方法を確認しました。プライマリにはエリアとアングルがあり、その場所にいることだけが目的ではなく、プレイに対してステイをすることが大切であることを学びました。

講義③では、加藤氏より「プレゼンテーション」について講義していただきました。始めに、「優秀な審判員であるために最も大事な要素は何か？」という質問から入り、1人1つずつホワイトボードに記入していくことから始まりました。プレゼンテーションは正しく判定をすることと同じくらい重要なことであり、プレゼンテーション1つでその審判員の印象も決まる。その人の印象を感じる大きな割合を占めているのが、ボディランゲージである。言葉でも声でもなく、コートでの立ち居振る舞いや走り方が最も大切であるということをお話していただきました。しかし、今は声を出すことも重要視されているので、TOレポートはもちろん、それ以外の場面でも積極的に声を使うことで、試合に関わる人達とコミュニケーションがとれ、しっかりとゲームコントロールができるというお話をしていただきました。今後は鏡やビデオを使ったシグナルやジェスチャーの練習をさらに重ね、さらに2面以上のコートでも分かるような声の出し方を工夫していきたいと感じました。

コート研修では、上田氏より1日目の実技研修を踏まえてローテーションをする際のトレイルとセンターの動き方や体の向け方、また3ポイントシュートに対するリードの協力についての研修をシチュエーション毎に行いました。また、加藤氏と漆間氏に声を使ったレポートをしていただきました。はっきりとしたシグナルや大きな声でのレポートを目の当たりにして、迫力があり圧倒されました。このようなプレゼンテーションができるよう、自分をもう一度見つめ直し、もっと練習をしていかなければならないと痛感しました。

<実技①>

大会名 : B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018 (男子)

担当試合: 1) 12:00~ 浦市中② — 新潟

R 伊藤 純一 (長野) U1 大島 将之 (岡山) U2 五十嵐 菜美 (東京)

2) 13:30~ 浦市中④ — 栃木

R 大島 将之 (岡山) U1 五十嵐 菜美 (東京) U2 伊藤 純一 (長野)

3) 16:00~ 奈良 — 島根

R 五十嵐 菜美 (東京) U1 伊藤 純一 (長野) U2 大島 将之 (岡山)

担当講師: 漆間 大吾氏、片寄 遠氏

- 講評 :
- ・リードレフェリーの際、0度からのショットに対してエンドラインに対して平行になり、トレイルとの協力をはかる。
 - ・リードに入ってセンターサイドでボールがある時、トレイルがバックコートからフロントコートに入った瞬間スイッチサイドをおこなう。それまではクローズダウンポジションで準備をする。
 - ・隣のコートに聞こえるくらいの声の大きさを意識する。
 - ・ローテーションをおこなう際
リード ⇒ スキャンザペイント (キープレイヤーがペイント内にいる場合特にチェック)
センター ⇒ ピックザペイント (見るべきプレイをつかまえにいくように)

○1月6日(土) 2日目

時間	研修名及び講師
9:00~11:00	研修「ワークショップ」 (上田篤拓氏)
11:00~17:15	3PO 実技②
17:20~17:25	閉講式

研修内容

「ワークショップ」では、上田氏よりこの時間は全て英語でディスカッション等を行うようにというお話から始まった。事前に配布されていたBリーグの映像をもとにグループ毎に決められた時間のゲームについて、メカニクス・プレゼンテーション・ジャッジメントの3項目からグループディスカッションを行い、意見をまとめて発表をした。ある1つの現象でも様々な考えや異なる意見があり、非常に興味深く、また面白みを感じた。それから、上記の3項目のどれもがゲームにおいて非常に大切なことであり、それがチームや観客の大きな信頼に繋がっていくことだと考えた。また、英語を話せない人も伝えようとすることによって、受け取る方も理解しようとするというお話をさせていただき、積極的に参加することができたが、英語力の欠如を痛感したので、自分のできることから、少しずつ取り組む必要があると感じた。

<実技②>

担当試合: 1) 12:00~ 滋賀 — 新潟

R 五十嵐 菜美 (東京) U1 阿部 ちひろ (岩手) U2 田中 沙紀 (愛知)

2) 13:30~ 島根 — 市川第一

R 池田 隼人 (愛媛) U1 大井 陽平 (埼玉) U2 五十嵐 菜美 (東京)

3) 16:00~ 横浜 — 千葉

R 五十嵐 菜美 (東京) U1 近藤 賢 (愛知) U2 山口 勝真 (長崎)

担当講師： 堀内 純氏、関口 知之氏、平 育雄氏

- 講評：
- ・3人の中でアイコンタクトやサイン等でコミュニケーションをとり、時限の終わりを誰が宣するのか、チームファウルの数を確認する＝ミスをしない
 - ・C to C をアスレチックに軽やかに走る
 - ・アングルは「奥行き」と「高さ」をとらえるためにある
 - ・スクリーンプレイに対しての見方→スクリーナーに対するディフェンスをチェックするための位置取りをする「ポジションアジャスト」
 - ・TO レポートだけではなく、アウトオブバウンズやリスタートの時などあらゆる場面で声を使う癖をつける

7. U32 Young Officials Camp 2018 に参加して

2日間を通して、全国の若手審判員とともに本研修に参加し、沢山の講師の方々のお話をお伺いすることができ、大変貴重な経験をさせていただくことができました。

3PO メカニクスに関してさらに知識を深めることができたが、オンザコートに立つと実践できなかつたり、やってみても上手くいかないことの方が多く感じ、3PO の難しさを実感しました。2PO よりも3人が協力し、自分のプライマリを強い責任感を持ったうえでクルー同士が信頼し合わなければならないということ、それから自分のプレイに対する理解の甘さを痛感しました。

また、今回のキャンプで「英語力」の重要性を再認識致しました。「ワークショップ」では日本語では言えるが、英語で言い表すことが難しい言葉があったり、自分の引き出しが少ないため伝えられなかつたりと、映像に関してミーティングをするにはまだまだ程遠いステージにいることを知ることができました。今後は、自分にできることを少しずつ積み重ね、積極性を持って己を磨いていきたいと感じた。

この3日間で得たことをまたさらに自分の中で研究を重ねていきながら、東京都や連盟に還元していきます。

最後に今回の研修に対してご尽力いただきました JBA のの方々をはじめ、講師の方々、大会運営スタッフの方々、推薦していただいた東京都の久保ブロック長に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上